

- 5 . 統合医療に関する利用実態調査

Survey on Integrated Medicine in Japan

キーワード	統合医療, 代替医療, 鍼灸, 漢方
Key Word	Integrated Medicine, CAM, acupuncture ,Kanpo

1. 調査の目的

西洋医療を補完・代替するものとしての代替医療および、西洋医療と代替医療を統合した統合医療が注目を浴びるような時代になった。しかしその利用実態は必ずしも明らかになっておらず、今回は一般国民を対象としたウェブアンケートにおいて、代替医療の受診状況、受診理由、治療の満足度、副作用などについて幅広く質問した(有効回答総数 1603 票)。

2. 調査研究成果概要

(1) 代替医療の受診実態

過去一年間における受診率では、いわゆる西洋医療が73%と最も高いが、代替医療の中では、サプリメントや栄養剤(あわせて9割)が最も多く、健康器具・機械(16%)、漢方薬(18%)、あんま・マッサージ・指圧(14%)、はり・きゅう(7%)と続いている(図1参照)。

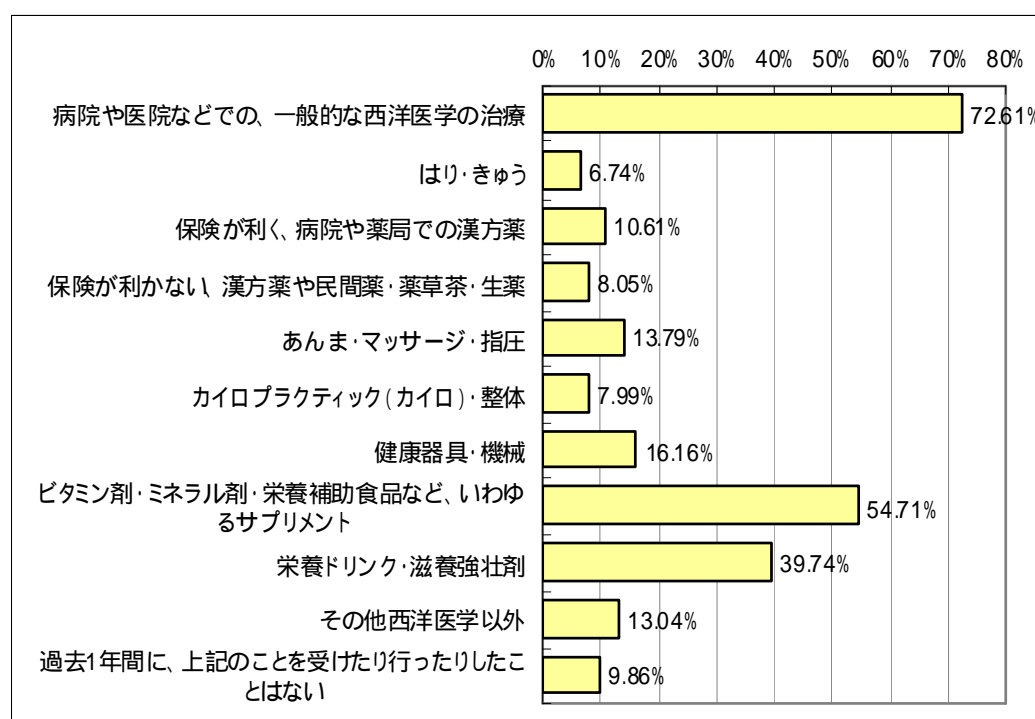


図1 過去1年間の受診状況(複数回答)

受診理由としては、「はり・きゅう」の場合は「西洋医学の治療に不満」「西洋医学よりも効果がある」といった積極的に代替医療を選択した意思が浮かび上がってきた(図2参照)。一方、漢方薬については、医師に進められたからという理由も大きく作用している。

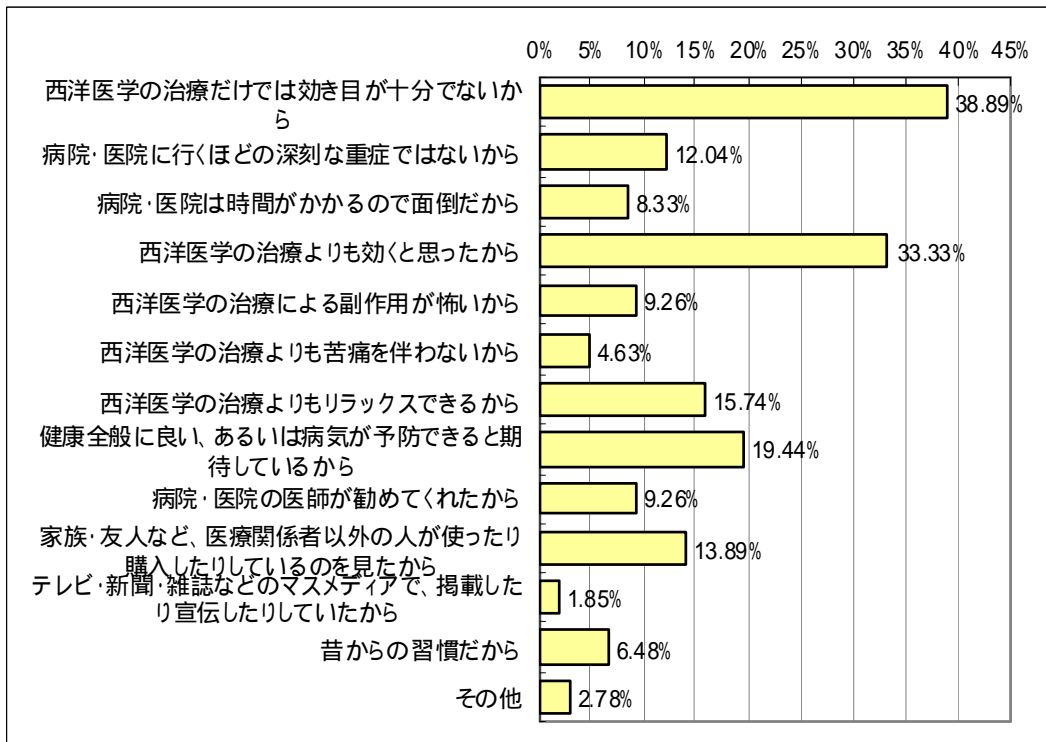


図2 はり・きゅうの受診理由（複数回答）

(3) 代替医療の効果・副作用の主観的評価

代替医療の効果および副作用についての利用者の主観的評価は、今回のアンケート結果からは2つのグループに分かれる。すなわち、はり・きゅうについては、効果ありと判断する比率が高いと同時に、副作用ありとする回答も他の代替医療よりは高い傾向にある。一方、はり・きゅう以外については、やや効果は落ちるが、副作用も少ないという判断がなされている(図2)。ただし、これはあくまでも利用者の主観的判断であり、治療行為別の効果・副作用の実態をそのまま反映しているとは限らない。(図2では、保険のきく漢方ときかない漢方、およびサプリメントと栄養ドリンクは、同じグループとして集計している)

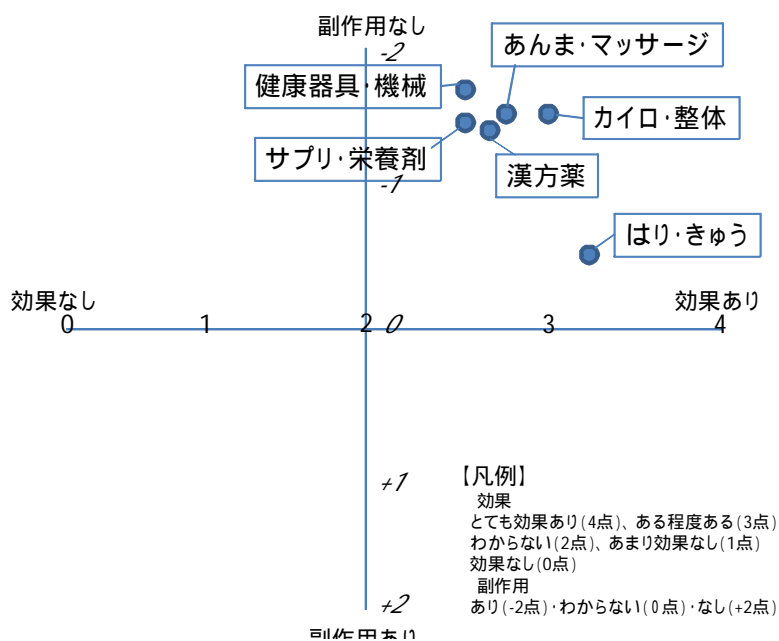


図3 代替医療の効果および副作用に関する利用者の主観的評価